三田市立三輪小学校

としょ　だより

2025

学校図書館へようこそ

三輪小学校では、みなさんがもっと本を好きになれるように取り組んでいます。図書館では、本にかかわるコンテストを順番に紹介しています。読書感想文・森の童話大賞・読書すいせん文……

「さあ 今年はどれにちょうせんしてみましょうか？」

としょかんりようあんない
図書館利用案内

空いているとき

前の日の中休み
一昼休み：図書委員
月曜日・木曜日：司書

図書の時間に本をえらぶ

借りたい本を1人で探します
（お友達と借りながら一緒に探しません）
3冊のうち1冊は絵本（E類）や小説（Y類）を借りましょう

本をかりる

① カウンターにかりたい本を持って行く
② 「かります・□年・□組・□番 名前」を言う
③ バーコード指段で ぴぃ してもらう
④ 図書バックに本を入れる

貸出冊数：3冊
期限：一週間

本をかえす

① カウンターに本をバーコード指段で出します
② 「かえします」と言う
③ ぴぃ してもらう
④ 背ラベルを見て、正しい棚に本を戻しましょう

図書館の2つのお約束

1. 静かに行動しよう音と動き
2. 人と本と物を大切にしよう

読書通帳

- 本を1冊すべて読み終わったら本の題名などを書いていきます。
- 学校で借りていない本でも、読んだ本はすべて書けます。
- 最後のページの、「この通帳で読んだ本全部のページ数」と「一番のお気に入りの本」もお忘れなく。

森へのおもいを、おはなしに

第13回 KOBELCO 森の童話大賞

森をテーマにしたあなただけのお話を募集しています。

２０２５年６月４日～９月３日

コンクールというと、ちょっと遠いお話のような気がしますか

昨年の森の童話大賞では、小学3年生 宮崎 文寧さんの作品「森の景色屋」が絵本になりました。

ある不思議な森の中にある、「森の景色屋」さん。くまの店員さんは、つかれたリスさんにいやしの景色を、こまったかおのオオカミさんには、こまっていたことをすっかり忘れてしまうほどきれいな風景を・・・次々やってくるお客さんにぴったりの場所を案内するのです。この絵本は全国の図書館などにプレゼントされます。三田市立図書館にも、もちろん学園小学校図書館にもあります。

自分のお話が絵本になって、みんなを楽しませることができるなんて、ワクワクがとまらないですね。

第71回読書感想文コンクール課題図書（2025年度）低学年〔1・2年〕

	ともだち リンダ・サラ/作 ベンジー・デイヴィス/絵 しらい すみこ/訳 ひさかたチャイルド	ぼくとエトは大のなかよし。なにをするのもいっしょ。毎日、丘の上に段ボールをもっていってあそぶ。 ある日、しらないおとこ「シュー」が仲間に入れてほしいとやってくる。エトはすぐ仲良くなるが、ぼくはちょっとフクザツ。なんか、仲間はずれになった気分。丘にもいかなくなった。そんなぼくのところにエトとシューがやってきて・・・。
	ライオンのくにのネズミ さかとく み雪/作 中央公論新社	ライオンの国にひっこしし、ライオンの学校に転校したネズミ。ライオンたちがこわくて、にげてばかり。やっとなかよくなったネズミがいうには、ネズミの国では、女の子と男の子は、別々の学校にかよい、女の子は、スポーツをしないんだって。いろいろな国で育ったぼくたちは仲良くできるのかな？ 「国際理解教育」の教材としても読める一冊です。
	ワレワレはアマガエル 松橋 利光/文・写真 アリス館	アマガエルのくらしをしってる？ どうしてギャッギャッという大きな声でなくのか？頭からおたまじゃくしになり、かえるになり、冬眠するまでをアマガエルがたのしく自己紹介するよ！
	ぼくのねこ ポー 岩瀬 成子/作 松成 真理子/絵 PHP研究所	学校からの帰り道、へいの上にいたねこを家につれて帰った。「ポー」となづけたねこは、ぼくになついた。ずっと、ぼくの家のねこになってくれたらいいなと思っていたけれど、転校してきた森くんから、引っ越した日にねこが逃げ出したことをきいた。「ポー」は森くんのねこかもしれない。でも、はなれたくない。ぼくは、どうしたらいい？

第 71 回読書感想文コンクール課題図書（2025 年度）中学年〔3・4 年〕

	バラクラバ・ボーイ ジェニー・ロブソン/作 もりうち すみこ/訳 黒須 高嶺/絵 文研出版	バラクラバ帽をかぶった転校生トミーがやってきた。そのとたん、ぼくとドゥミサニのたいくつな毎日が大きくかわる。なぜ、トミーはバラグラバ帽をかぶっているんだ？体育の時間も昼食中でさえ帽子をぬがないトミーに、みんな興味しんしん。なんとか帽子の下の顔を見てみたいとぼくとドゥミサニと優等生チェリーも加わって作戦をたてるのだが・・・。さて、トミーは、帽子をとるのか？その下にかくされていたものは？
	ふみきりペンギン おくはら ゆめ/作・絵 あかね書房	ゆうとはペンギンにるりは白ヘビに、ななこはライオンに、そうすけはフクロウに、それぞれ出会って話したり、ふしぎな経験をするうち、むかし嫌なことを言われてニガテだなと思っていた相手の気持ちがわかるようになってくる。小学３年生の成長物語。
	地球の気温上昇がもたらす環境災害 **たった2℃で・・・** キム・ファン/文 チョン・ジンギョン/絵 童心社	地球の気温が２℃上がっただけで、珊瑚が死んでしまったり、ゴマフアザラシが赤ちゃんを産む場所がなくなってしまったり、ウミガメがメスばかりになり、子孫を残せなくなったり、虫の数がばくはつ的に増えて、人間の食べるものがなくなってしまうかもしれない。地球温暖化をとめるために私たちができることは何か？みんなで考え、実行していこう！
	ねえねえ、なに見てる ブクター・ベルモント/ 絵と文 金原 瑞人/訳 河出書房新社	人、それぞれ、見え方ってちがうよね。 「色の見え方がほかの人とちがう」男の子が、かぞくと食事しているときに、ほかの人たちには、まわりがどんなふうに見えているのだろうと考えます。

第 71 回読書感想文コンクール課題図書（2025 年度）高学年〔5・6 年〕

	マナティーがいた夏 エヴァン・グリフェス/ 作 多賀谷 正子/訳 ほるぷ出版	11歳の夏休み、ピーターは、全てうまくやれるはずだった。認知症のおじいちゃんの世話をしながら、親友のトミーとともに「生き物発見ノート」を完成し、けがをしたマナティーを守る・・。ところが、何もかもがうまくいかない。おじいちゃんは、台風の日に外に出て、骨折し、入院してしまうし、マナティーを守る運動にもじゃま者が現れる。そして、そして、親友で、同じ中学に行くことを楽しみにしていたトミーがまさかの引っ越し？ピーターはいったいどうなる？
	とびたて！ **みんなのドラゴン** **ALSの先生と日明小合唱部の冒険** オザワ部長/著 岩崎書店	ALSとは、手足などから始まりやがて、全身の筋肉が衰えていく病気。この病気を治す方法はまだみつかっていない。そんな病気に侵された先生とその部員たちが力を合わせ、夢の舞台を目指す。 内気で人前では話せないマナミは、自分の殻を破りたいと、合唱カンパニーに入部する。そこで出会ったのが、ALSを患う竹永先生だった。始めは、声すら出せなかったマナミだが、仲間や先生からの声かけによって成長していく。ラストのマナミと先生の言葉に感動することまちがいなし！
	森に帰らなかったカラス ジーン・ウィリス/作 しらこ/画 山﨑 美紀/訳 徳間書店	1957年、ロンドン郊外の町。11歳の少年ミックは、ケガをしたニシコクマルカラスのひなをみつける。けんめいに手当てするうち、ひなはミックになつくようになる。ジャックと名づけられたひなは、成長し、汽車に乗って旅をした記事が新聞に載るなど、地域の人気者となるのだが・・。 第二次世界大戦の傷跡が残る 1950年代のイギリスを舞台に、後にロンドン動物園の飼育員となった少年の実話にもとづく物語。
	ぼくの色見つけた！ 志津 栄子/作 末山 りん/絵 講談社	描いた似顔絵の口にチョコレートがついていると言われ、深く傷ついた色覚障がいの信太朗。母親にも「かわいそう」と言われ自信を失うのだが、一輪車に乗れないから、教えてほしいと小学生に頼むおもしろい担任の先生が信太朗に向き合ってくれ、祖父や伯母、そして、「チョコレートついてる」と言った級友にも助けられ、成長していく物語。